

バリアフリー 2015

兵庫頸髄損傷者連絡会 土田 浩敬

1. はじめに

2005年、私は高所からの転落により首の骨を骨折し頸髄損傷者となった。受傷レベルはC4番、両手両足は使えず、顎で操作するチンコントローラータイプの電動車椅子を使用している。私が障害を持つまでは、身近に車椅子や電動ベッドなどは無く、触れたことも無かった存在だが、ある日突然の転落事故により、福祉機器利用者となった。退院後、インテックス大阪でバリアフリー展があるという情報を聞き、私自身の暮らしをより良いものにする手掛かりがないかと思い参加したのが始まりだった。それから生活の質の向上を求め、新たな福祉機器を探すため毎年のように参加している。

2. バリアフリー 2015 の概要

「バリアフリー 2015」の開催日時は2015年4月16(木)、17(金)、18(土)の3日間。場所はインテックス大阪。参加者は1日目29,224人、2日目30,761人、3日目35,027人の合計95,012人だった。

3. 様々な福祉機器

私自身が障害当事者ということもあり、「もし、頸髄損傷の私が利用したら」という観点で見ているので多少偏った見方をしているかもしれない。車椅子は私には無くてはならない福祉機器で、歩くことの出来ない人にとって、まさに足そのものだ。手動車椅子、ジョイスティックで操作する電動車椅子、顎で操作するチンコントローラータイプの電動車椅子、障害の種類、程度によって車椅子も様々である。

中には立位が出来る海外製のものもあり、以前からこのタイプはあったのだが、近年では機能プラス、「オシャレで乗ってみたい」と思わせる、見た目の良さも備わってきたのではないかと思う。この他にも機能性に加え見た目にこだわった福祉機器が増えたことで、以前までの福祉のイメージが、これから変わって行くのではないかと感じた。

毎年、沢山の製品が紹介されているので、何を見るか困るのだが、障害当事者向けの製品だけではなく、支援者向けの物も豊富に展示してあった。中でも以前から気になっているのは、「介護用ロボットスーツ」である。これから普及していくには、まだまだ改良していく余地はあるかもしれない。だが実用化され、どこでも見かける福祉機器になれば、介護には常につきまとい、困っている方も多と思われる腰痛も、この様な福祉機器を上手く活用する事で、軽減するのではないだろうか。

4. おわりに

年々参加すると新しい発見があり、私の暮らしに役立てたいと思う機器に出会う。カタログやパンフレットを見るだけでも分かるかも知れないが、実際に会場を訪れて、目で見て確認し、自らの手で触れてみる事で、より詳しい情報を得ることが出来るだろう。これからも福祉機器が進化していく中で、誰にでも優しいユニバーサルデザインがスタンダードの未来になることを望み、今回の報告を終えたいと思う。

兵庫頸髄損傷者連絡会

〒674-0068 兵庫県明石市大久保町ゆりのき通
2丁目3-5-1-205 (三戸呂方)